

パネル
ディス
カッション

■パネリスト

高崎経済大学 名誉教授 岸田 孝弥
スポーツキャスター 荻原 次晴
フリーアナウンサー 蟹江 篤子
自動車評論家・レーシングドライバー 太田 哲也

■司会・進行

大嶽 まどか

交通事故を予防するために
私たちがができること

司会 愛知県は、10年連続で交通事故死者数全国ワースト1。11年連続という結果を残さないために始まったのが「AICHI SAFETY ACTION」です。このキャンペーンでは、交通事故の原因や知られざる事実を、わかりやすいデザインとメッセージによって6枚のポスターにまとめました。愛知県のさまざまな場所に掲示し、啓発活動に活用されているこのポスターを見ながら、本日は事故原因に対する予防方法などを考えてみたいと思います。そしてシンポジウムが終わり、この会場を一步出たその瞬間から、意識を変えてください。交通事故によって、まだ続くはずのない人生が奪われることのないよう、皆さんも「AICHI SAFETY ACTION」を一緒に始めましょう。

SAMPLE

フリーアナウンサー 蟹江篤子氏

元東海ラジオアナウンサー。「ミッドナイト東海」、「ぶっつけワイド」、「ビタミンラジオ」など人気番組を担当。平成21年よりフリーアナウンサーとなり、現在「かにタク言ったもん勝ち」(東海ラジオ)を担当。



会場にはおよそ200名の聴衆が詰めかけた

action 1

早起きやストレッチで朝の交通事故を防ぐ

司会 1つめのテーマ「6時から9時の交通事故死者が増えている」ことについて意見をお願いします。

荻原 朝の6時から9時といえば、通勤通学の時間です。歩行者、自転車、自動車が一斉に道に出てきますし、我先にと急いでイライラしている人も多いのではないのでしょうか。そんな時だからこそ、互いを思いやる心を持ってください。少しでも早起きをして、時間に余裕を持つことも事故防止につながるはずです。

太田 運転する立場から考えても朝一番の運転というのは危険です。運転という行為は、想像以上に高度な作業です。僕たちは自動車レースに臨む際、朝はしっかりとストレッチをしてひと汗かいてから、ハンドルを握ります。体や頭を起こしてから運転するようにしましょう。

action 2

通い慣れた道こそ注意して通行を

司会 次に交通事故死者の内、およそ半数が高齢者であるという現状について。



自動車評論家 レーシングドライバー

岸田 私自身、友人が運転する車に同乗していて、シート性を実感する大事故があります。シートベルトは命を助けてくれる重近では、助手席はもちらのシートベルト着用、命を守りましょう。

太田 自動車実験をシートベルトをしていない人形が、衝突の勢いで座席の人を押しつぶす場があります。時速時では、衝撃がおよそ体重60キロの人が後ズてきたら、1.8トンもの重さです。5キロの子ど、面倒がらずにシート用し、子どもはチャイルドシートを必ず着用させましょう。

広告



熱のこもった議論を交わすパネリストたち

SAMPLE

“今日からできる気遣いで 事故のない明るい未来づく



スポーツキャスター
荻原次晴氏

幼少の頃より、双子の兄である健司と共にスキーを始め、日本代表としてワールドカップ、長野五輪などにも出場し、輝かしい成績を残す。現在はテレビ番組などで活躍中。

司会 続いてシートベルトの必要性についてご意見をお願いします。

action 3

シートベルトが
重要な命綱に

出入り口から歩道に出る時が最も危険。私もマンションから出る時、車の通らない歩道であっても必ず立ち止まって、自転車や急いで走ってくる歩行者がいらないか左右を確認します。さらに、信号のない所や、赤信号の横断歩道を渡る高齢者の方を多く見かけます。せっかちにならず、注意力を高めてください。

岸田 高齢者は自宅から500メートル圏内で事故に遭っているケースが多い。何十年と住み慣れた生活圏内だからこそ、危険への意識が低下してしまいがち。最近では抜け道と称して、生活道路に高速で入ってくる自動車が増えています。通学道路や高齢者人口の密度が高い場所は進入禁止にするなどの措置も必要になってくるかもしれません。

太田 高速走行がで、日本ほど交通事故のない理由は、歩行者や自バイの間でアイコンタクトしている点にある。日本を渡る時にも、青信号をトフォンばかり見て歩い違反してないから良いだから自分は悪くないとなく、歩行者も、自転

司会 最後に、交通のため、また予防するためについて、ご意見をお願いします。

荻原 私は5年前にと1歳の娘がいます。日は、自分の命や健康はものだという事。みなな家族がいるはずですが、転車が悪いということが起こらないように自分を守るといふことの大切めて実感しました。

司会 昨年、夕暮れ1時間あたり13・5人、事故の多い午後10時から12・5人を上回りました。

蟹江 これからの季節、暮れが早くなります。時間遅くなるのと

action 4

自動車も歩
見えやすい

ために

action 1 早起きヤストレッチで朝の交通事故を防ぐ

司会 1つめのテーマ「6時から9時の交通事故死者が増えている」ことについて意見をお願いします。

荻原 朝の6時から9時といえば、通勤通学の時間です。歩行者、自転車、自動車が一斉に道に出てきますし、我先にと急いでイライラしている人も多いのではないのでしょうか。そんな時だからこそ、互いを思いやる心を持ってください。少しでも早起きをして、時間に余裕を持つことも事故防止につながるはずです。

太田 運転する立場から考えても朝一番の運転というのは危険です。運転という行為は、想像以上に高度な作業です。僕たちは自動車レースに臨む際、朝はしっかりストレッチをしてひと汗かいてから、ハンドルを握ります。体や頭を起こしてから運転するようにしましょう。

action 2 通い慣れた道こそ注意して通行を

司会 次に交通事故死者の内、およそ半数が高齢者であるという現状について。

蟹江 歩行者から見ると、建物の



自動車評論家 レーシングドライバー
太田哲也氏

元プロレーシングドライバー。レース中の事故で瀕死の重傷を負いながらも不屈の精神で復帰。著書「クラッシュ」はベストセラーに。現在は交通安全をテーマに、ドライビングレッスンや小中学校出張授業を全国で展開。

岸田 私自身、友人が運転する車

に同乗していて、シートベルトの重要性を実感する大事故に遭ったことがあります。シートベルトは、間違いなく命を助けてくれる重要な手段。最近では、助手席はもちろん、後部座席のシートベルト着用も求められています。同乗者みんなでシートベルトをするよう声を掛け合い、お互いの命を守りましょう。

太田 自動車実験を見学した際、シートベルトをしていない後部座席の人形が、衝突の勢いで助手席や運転席の人を押しつぶす場面を目にしたことがあります。時速40キロの走行時では、衝撃がおよそ30倍。つまり、体重60キロの人が後ろからぶつかってきたら、1.8トンもの衝撃を受けているのです。5キロの子どもでも150キロ。面倒がらずにシートベルトを着用し、子どもはチャイルドシートに座らせましょう。

ります。明るい服装で目に留まりやすくする、買物バッグにキラキラ光るものを付けるなど、歩行者は自動車や自転車などに気付いてもらえる工夫をしましょう。

action 5 明るい色・反射材で存在をアピール

太田 ヨーロッパでは数年前からデイルイトの点灯が義務付けられています。自動車だけではなく、自転車も歩行者も、まずは自分の存在を相手に伝えること。自分の身は自分で守りましょう。

司会 続いて、服装についてです。昨年、午後6時から10時の間に交通事故で亡くなられた方の大半が黒や灰色など暗い服でした。心がけられていることは？

荻原 白色や明るい色の服装を心がけることが大切。ただ、ビジネススーツなど、季節外れな色を着用できない時もあります。僕は普段、自転車によく乗るのですが、明るい色のウインドブレーカーなどを鞆にいつも入れています。小さく丸められるタイプのももの販売されていますので、夜出かける時や帰り道に取り出してさつと羽織る。他にも、僕が今日着ているスーツは、袖口や襟の内側に反射材が付いていて昼間は二見普通のスーツですが、夜になると光ります。服選びの際にも、自分が目立つことを考えて、お洒落を楽しむのも良いですよ。

出入り口から歩道に出る時が最も危険。私もマンションから出る時、車の通らない歩道であっても必ず立ち止まって、自転車や急いで走ってくる歩行者がいけないか左右を確認します。さらに、信号のない所や、赤信号の横断歩道を渡る高齢者の方を多く見かけます。せつがちにならず、注意力を高めてください。

岸田 高齢者は自宅から500メートル圏内で事故に遭っているケースが多い。何十年と住み慣れた生活圏内だからこそ、危険への意識が低下してしまいがち。最近では抜け道と称して、生活道路に高速で入ってくる自動車が増えています。通学道路や高齢者人口の密度が高い場所は進入禁止にするなどの措置も必要になってくるかもしれません。

action 3

シートベルトが重要な命綱に

司会 続いてシートベルトの必要性についてご意見をお願いします。



スポーツキャスター 荻原次晴氏

幼少の頃より、双子の兄である健司と共にスキーを始め、日本代表としてワールドカップ、長野五輪などにも出場し、輝かしい成績を残す。現在はテレビ番組などで活躍中。

action 4

自動車も歩行者も見えやすい工夫を

司会 昨年、夕暮れの事故死者は1時間あたり13.5人。夜間で最も事故の多い午後10時から午前0時の12.5人を上回りました。

蟹江 これからの季節は特に、日暮れが早くなりますし、買い物に行く時間が遅くなると歩道が暗くな

司会 最後は、交通事故を減らすため、また予防するためにできることについて、ご意見をお願いします。

荻原 私は5年前に結婚し、3歳と1歳の娘がいます。日々感じることは、自分の命や健康は家族みんなのものだということ。みなさんにも大切な家族がいるはず。車が悪い、自転車が悪いということではなく、事故が起きないように自分の身は自分で守るということの大切さを今日、改めて実感しました。

太田 高速走行が常のヨーロッパで、日本ほど交通事故が多発していない理由は、歩行者や自転車、ドライバーの間でアイコンタクトが交わされている点にある。日本では横断歩道を渡る時にも、青信号だからとスマートフォンばかり見て歩いている。規則違反していいから良い、歩行者優先だから自分は悪くないということではなく、歩行者も、自転車も、ドライ

岸田 反射材というのは非常に有効です。各所で行われている交通安全講習会などで配布しているケースもありますから、帽子や鞆に付けるなど、ぜひ積極的に活用してください。



岸田孝弥氏

バーも互いに命を守り合う気持ちを持ちましょう。

蟹江 歩行者代表として私が思うのは、守ってもらえると思ってはいけないということ。駐車場から歩道を横切って車道に出ようとする車に、「ありがとう」と笑顔でアイコンタクトして、渡りたいという意志を伝える。そういう些細な挨拶が心のゆとりを生み、快く譲り合う気持ちを生むのだと思います。

岸田 今日は大勢の方に集まっていたいただきました。こういったシンポジウムなどで学んだこと、感じたことを、ぜひ地域のみなさんにも伝えてください。そして、地域の中で危険な場所や行為に気付いたら、生の声をお寄せください。みなさんの協力なくして交通事故は減りません。今日の話を参考に、自分の身を守る行動を実践してください。